

# TUT Excaliburs News Letter

## ベースマン関西ツアー初体験記！！

TUTエクスキャリバーズに新しいベースが登場したのはちょうど1年前の1月、ここ「バックイントown」のステージからだった。その直後、TUT恒例の約半年のオフ期に入り、ゴールデンウィークに合宿を行い、再度登場したのが7月のBIT、新年度スタートのステージからでした。7月のステージも無事終えいよいよ関西へ。

9月、最初の遠征は神戸で行われた「沢の鶴 ほろ酔い



コンサート」と大阪の「Jazz Gallarey」から。三宮駅前での待ち合わせでスタートした。「午後1時に三宮駅、阪急を改

札口出て、左に行ったらさらに左に行った辺りで……」、という実にいい加減な集合。それでも全員無事に時間通り集合しリハーサル。この時点での BassManの翌日のコンサートにおける最大目標は、関西のお客様から「笑い」をとること。東京と違う笑いに対する厳しさを克服することが



できるのであろうか……。練習を早々に終わらせ、友人の紹介で中華料理(+ベトナム料理)を食べました。生春巻が有名で美味しいらしいが、

他の珍しい料理もあり、それらをたらふく頂いた。その後三宮のライブハウスなのか移動し、さらに一杯ずつ。そこで軽く演奏させていただいて翌日に備えて早々に帰宅、宝塚で一泊。

ゆっくり寝て朝は散歩からスタート。初めての街を地元の谷戸氏に案内いただき、宝塚劇場の「入り待ち・出待ち」のファンたちを眺めながら散歩。



平成22年

1月23日発行 第1号

その後集合場所の阪急六甲駅へ電車でGo！！

駅に集合し、タクシーで「沢の鶴日本酒博物館」へ移動。ここはかつての酒蔵を残し、古くから続いている酒造



の過程を見せている。バスの駐車場もあり、売店も観光客用に用意してある観光スポット。左下の写真が酒を仕込む樽です。記念撮影をした。この蔵に今日のステージが作られていた。木造、漆喰の壁、そこに並べられた300の椅子。リハーサルから気合が入る。

控えの部屋には特製の奈良漬けと蔵出しの新酒が用意された。昼食は三宮の「すし万」さんからの鯖寿司。この鯖寿司が目当ての一つだそう。うまかった～。

我々は一部に演奏、二部はJAZZ。その間の休憩時間



15分が勝負なのだ。そう、沢の鶴の試飲会。純米・大吟醸 etc.樽酒を試飲。我々はステージが終わり、振る舞い酒・打ち上げと勘違いをし

ていると疑われるほど、何杯も何杯も美酒をおいただき、ご満悦。

ところで、ステージで心配していたトークは、無事うけ、関西でも予想以上に笑いをとることができた。満足。

夜は「すし万」で大将が待ち構えていてくれて、お約束の明石の鯛をはじめとした新鮮な美味しいものをたっぷりいただいた。生涯の中でも最高の鯛であった。ただ、残念なこと



にいつもの通り途中で爆睡してしまった。

翌日は「ジャズギャラリー」のコンサート。大阪市内の住友クラブにお招きいただき40分演奏させていただき、9月の関西遠征が終了した。いよいよ10月の遠征「神戸ジャズストリート」へと出かけるのです。

## 10月神戸ジャズストリート！！



神戸クラウンプラザホテルで行われた前夜祭から始まり、ボランティアナイトとミュージシャンたちは大忙し。世界中から一流のミュージシャンが集まり、前夜祭で演奏。

色々なメンバーが入れ替わり立ち替わりセッションを楽しんでいた。また、樽酒も用意され、振る舞われていた。ここでも沢の鶴の登場。海外からのお客様も含めて鏡割りから始まり、KJSが始まった。正式にはKJSは翌朝のパレードからスタート。

TUTはクラウンプラザの「The Bar」での演奏からスタート。続いてストリートの「Green Dolphin」最後に「ソネ異人館」という会場で、多くのお客様に聞いて頂いた。KJSのパンフレットには全ての出演者のプロフィールが書かれている。当然TUTはフォークのグループとして紹介されていて、JazzのフェスティバルにFolk。少し不安に思っていたが、初日も二日目も Green Dolphin に並んで頂いたお客様はTUT目当てのお客さまだったことに驚いた。しかも超満員で立ち見、続くソネも本店のオーナーから出演の依頼を頂戴するくらいに大盛況だったのだ。三宮の駅から北西に延びる商店街を楽器を持ったミュージシャンが右往左往している状況も見ものである。

写真は期間中のホテルのキーカード。カナダのトランペットプレイヤー、ブリア・スコンベルグの写真。末廣プロデューサーのお気に入りのプレイヤーです。



TUTは二日間で計6回の演奏を終え、三宮のイタリア料理屋へ。ここでも飲み放題コースでたくさん飲み、さらに帰り際に明石焼きを食べに。沢山イタリアンをいただいた後に明石焼きを。別腹？やはり美味しいものたくさんある



兵庫県。

2010年も「沢の鶴」も「KJS」も呼んで頂けるとしたら、さらに美味しいものを食べられるよう、今から体調を整

えておきたいと思います。

明石焼きを食べた後、夜行バスで東京へ……

Zzzzzzz夜行バスは寝られない……。

## 11月の三度目は宝塚！！

「大阪と神戸」。これは簡単に「東京と横浜」みたいなものだね。「うん、そうそう」と簡単に理解できそうな気がするが、実際は仲が悪い？「同じ関西」とくくると両方が気を悪くする。大阪のおばちゃんと神戸のマダムとは別の人種なのだそう。神戸のマダム達は決して「豹柄」は着ない。値切らない。さて、そこで困るのが「宝塚」。大阪の通勤圏の高級住宅地であり、ご存じ宝塚歌劇団の聖地である。有名な場所である。阪急の駅構内にも古いデザインの制服を着た学生たちが軍隊のように行進していき、上下関係に厳しい故、常にまわりの先輩の存在を確認しながら歩いて



いる。宝塚の駅ならではの風景だそう。

前日にJR宝塚駅改札出たところで待ち合わせ。そこから恒例のカラオケボックスへ。数時間の練習の後に「サンシティー宝塚」にチェックイン。到着後、翌日の演奏場所をご案内いただき、打ち合わせ。その後食堂へ行き、そのまま夕食タイムに突入。お酒は持込可と

いうことで、お酒好きなメンバーたちは、料理とお酒とワインを美味しくいただきました。部屋に戻り、少しだけ打ち合わせを行い翌日のために就寝。

サンシティーでの演奏は通して1時間。14曲を用意してステージに臨みました。何曲かは日本語と一緒に歌える歌を用意させていただきました



が、本当に大きな声で歌って頂き楽しんでいただきました。演奏後帰京の為に新幹線に乗ろうとしたのですが、谷戸氏に「連休をばかにしてはいけません……。」と言われた。楽に座れるだろう。駄目でもグリーン車ならと思い、チケットを取っていなかった私は、やられた。2時間位あとの列車まで全てが Sold Out。仕方なく自由席に並び、なんとか次の列車で無事に座って帰ることができた。でも、大きな楽器を持ち、迷惑だっただろうな～。一応一番後ろの車両の一番後ろの席の後ろに置いてきたのだが。

Written by Bass Man at T.U.T.